

二〇一四年三月七日

ランドセル菜の花畑に見え隠れ
いかなご船待つ大釜を滾らせて
すみれ草手のひらほどの日溜りに
序破急と気まぐれに舞ふ春の雪
太鼓橋くぐりて進む流し雛

菜々
うつぎ
菜々
ともえ
なつき

二〇一四年三月六日

渦潮をまたぐ大橋鳥帰る

宏虎

二〇一四年三月五日

今年また母直伝の花菜漬

はく子

二〇一四年三月四日

洞深き老幹なれど梅真白
園に愛づ梅は朧に昏れなんと
観光船すれ違ふ沖風光る

うつぎ
ともえ
ひかり

二〇一四年三月三日

梅の丘淀の流れを眼下とす
老い母の杖となりもし梅巡る
畝々に種袋挿す貸農園

菜々
さつき
雅流

啓蟄の土蹴散らして逆上がり

有香

新橋の渡り初めいま風光る

こすもす

渡船場の磯席卷すゆりかもめ

ぼんこ

二〇一四年三月二日

貸農園畝縦横に耕せる

雅流

雛の間へ旧家の廊の幾曲がり

雅流

土撫でてももの芽まだかと存問す

うつぎ

差し交はす屋根から屋根へ雪落つる

なつき

一陣の風に梅の香通ひけり

さつき

剥くたびにきしきしと鳴く春キャベツ

よう子

二〇一四年三月一日

老犬の歩を励ましつ青き踏む
身に入むや波止に震災モニUMENT
南縁を全開したる雛の宿
機嫌良き猫の尻尾や日向ぼこ

うつぎ
ひかり
あさこ
さつき

毎日句会みのる選・二〇一四年三月九日